

お申込みの際は必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

お客様向け資料

グローバルに勝ち残れる有望企業を選別し、  
割安な水準での投資を目指す

# フィデリティ 世界割安有望株ファンド



フィデリティ投信株式会社

2008年12月

目論見書のご請求・お申し込みは・・・

**大和証券**

Daiwa Securities

<販売会社>

商号等 大和証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号  
加入協会 日本証券業協会  
社団法人 日本証券投資顧問業協会  
社団法人 金融先物取引行協会

設定・運用は・・・

**フィデリティ投信株式会社**

<委託会社>

商号等 フィデリティ投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第388号  
加入協会 社団法人 投資信託協会  
社団法人 日本証券投資顧問業協会

## 当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は、フィデリティ投信株式会社により作成された販売用資料です。当ファンドの取得をご希望の場合には「投資信託説明書(交付目論見書)」を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認ください。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当ファンドは、株式など値動きのある証券に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。■信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。■分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■最終ページのご注意点も合わせてご覧ください。



# ファンドの主なリスク



フィデリティ投信株式会社

投資信託はリスク商品であり、投資成果は保証されておらず、投資元本を下回ることがあります。また収益や投資利回り等も未確定の商品です。ファンドは主として国内外の株式および公社債を実質的な投資対象としています。ファンドの基準価額は、組入れた有価証券の値動き、発行会社の経営・財務状況の変化、倒産、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。委託会社の指図に基づく行為によりファンドに生じた損益は全て受益者に帰属し、元本が保証されているものではありません。下記はファンドのリスクの一部をご説明したものです。

## 価格変動リスク

基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。

## 為替変動リスク

外貨建の有価証券等に投資を行なう場合は、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。

## エマージング市場に関わるリスク

エマージング市場(新興諸国市場)への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。

## 空売り等に関わるリスク

ファンドが主として投資を行なう投資対象ファンドにおいて、個別銘柄ないし特定の市場指数を売建てる取引を行なう場合があります。売建てる取引を行なった場合、対象となった個別銘柄や市場指数が値上がりした場合、ファンドの基準価額が下落する要因になります。

## 派生商品による買建てに関わるリスク

ファンドが主として投資を行なう投資対象ファンドにおいて、先物などの派生商品を活用して個別銘柄ないし特定の市場指数を買建てる場合があります。先物などの派生商品取引ではファンドの純資産総額を超過した建玉をもつことがあり、その場合、市場価格の変動以上にファンドの基準価額が下落する可能性があります。

詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご参照ください。

# お客様にご負担いただく費用について

フィデリティ投信株式会社

当ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。

## ●直接ご負担いただく費用

**お申込み手数料** 申込金額に下記の手数料率を乗じて得た額とします。  
 (申込金額: (申込受付日の翌営業日の基準価額/1万口) × 申込口数)

お買付時の申込金額	手数料率(税込)
5,000万円未満	3.150%
5,000万円以上5億円未満	1.575%
5億円以上10億円未満	1.050%
10億円以上	0.525%

※ただし、償還乗換え等の場合には、償還金等の額の範囲内で取得する口数について上記手数料を無料とさせていただきます。

**換金(解約)手数料** なし  
**信託財産留保額** なし

## ●保有期間中に間接的にご負担いただく費用

**信託報酬等** 純資産総額に対し年率0.8295%(税抜き0.79%)。  
 ※このほかに、ファンドが投資する投資信託証券の運用報酬等が別途課されるため、実質的な信託報酬等は、年率1.75%±0.05%(税抜き)程度となる予定です。(投資する投資信託証券の変更等により実質的な信託報酬等は変動することがあります。)

**その他の費用** 有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託事務の処理に要する諸費用、受益権管理事務費用、法定書類関係費用(作成・印刷・交付等)、監査報酬等は投資信託財産から差し引かれます。

※その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に合計額や上限額等を示すことができません。

※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

# お申込みメモ

フィデリティ投信株式会社

当初申込期間	2008年12月24日(水)から2009年1月19日(月)まで
継続申込期間	2009年1月20日(火)以降
当初設定日	2009年1月20日(火)
お買付単位	10万円以上1円単位*または10万口以上1口単位 *お申込み手数料およびお申込み手数料にかかる消費税等相当額を含めて10万円以上1円単位でお買付けいただけます。
お買付価額(1万口あたり)	申込受付日の翌営業日の基準価額(当初申込期間は1万口当たり1万円)
当初募集上限額	1,000億円
信託金限度額	2,000億円
お買付け・ご換金	継続申込期間におけるお買付け・ご換金のお申込みの受付は、午後3時(年末年始など半休日においては、午前11時)までとさせていただきます。この時間を過ぎてのお申込みは、翌営業日の取扱いとなります。 ※英国の休日と同じ日付の日には、販売会社の営業日であってもお買付け・ご換金のお申込みの受付は行ないません。
信託期間	2009年1月20日から2019年12月26日まで ※ファンドの残存口数が30億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。
収益分配方法	毎年6月26日および12月26日(ただし、休業日の場合は翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づき分配を行ないます。ただし、必ず分配を行なうものではありません。 なお、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 「分配金再投資コース」・・・税金を差引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。 「分配金支払いコース」・・・税金を差引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いします。
ご換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額 ご換金代金は、換金請求受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社にてお支払いいたします。
委託会社	フィデリティ投信株式会社
受託会社	中央三井アセット信託銀行株式会社
販売会社	大和証券株式会社

# 目次

フィデリティ投信株式会社

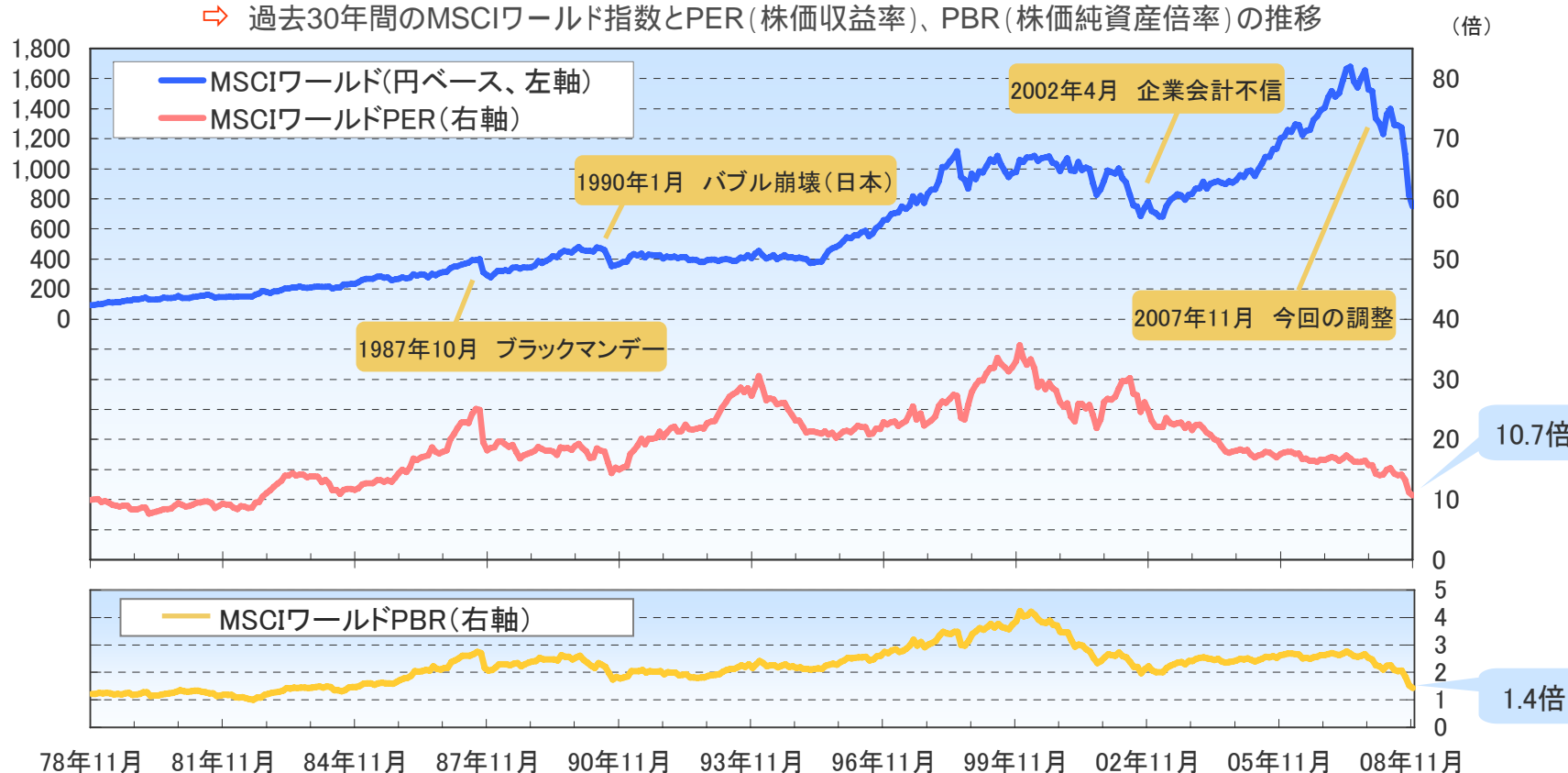
ファンドの主なリスク	1
お客様にご負担いただく費用について	2
お申込みメモ	3
目次	4
調整局面で広がりつつある投資機会	5 - 7
ファンドのポイント	8
<i>Point 1</i> 世界割安有望株とは？	9 - 12
<i>Point 2</i> 有望株を選別する徹底的な調査	13 - 16
<i>Point 3</i> 投資機会を追求する運用体制	17 - 18
ファンドの概要	19
主な投資対象ファンドの運用状況	20 - 22
ご参考(フィデリティのスペシャル・シチュエーション運用について)	23 - 26
ご注意点	27

# 調整局面で広がりつつある投資機会 (1)

フィデリティ投信株式会社

## PERは25年ぶりの水準まで低下

⇒ 過去30年間のMSCIワールド指数とPER (株価収益率)、PBR (株価純資産倍率)の推移



注: Rimes、Factsetよりフィデリティ投信作成 期間: 1978年11月末~2008年11月末 グラフ中の年月は、下落前高値の翌月  
MSCIワールド指数とは、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI社)の算出する世界主要国の株式市場の動きを示す指数です。  
PER=株価÷EPS(一株当たり利益) PBR=株価÷一株当たり純資産

## 調整局面で広がりつつある投資機会 (2)

フィデリティ投信株式会社

 1970年以降、今回のような欧米発の調整(欧米の株価が1年で20%以上調整)があった後の1年間は、相場は大きく反騰しています(騰落率平均26.9%)。

⇒ 欧米の株価が1年で20%以上調整した局面における主要株価指数の下落とその後1年間の上昇率(月末ベース、円ベース)

年月	過去1年間の下落率			その後1年間の上昇率		
	世界株	米国株	欧州株	世界株	米国株	欧州株
1974年 9月末	-30.7%	-32.8%	-31.0%	32.5%	40.0%	36.6%
1974年 10月末	-24.0%	-20.4%	-29.0%	27.3%	25.2%	39.3%
1987年 12月末	-11.3%	-21.1%	-20.9%	27.7%	19.4%	19.9%
1988年 1月末	-11.2%	-20.7%	-20.7%	27.5%	21.6%	27.8%
1988年 7年末	-12.1%	-22.5%	-23.5%	27.4%	36.3%	35.8%
1988年 8月末	-14.8%	-21.7%	-21.3%	34.9%	46.8%	44.0%
1988年 9月末	-13.5%	-20.2%	-21.2%	30.4%	37.7%	36.2%
2002年 7月末	-24.3%	-27.4%	-21.3%	10.0%	11.3%	10.0%
2002年 12月末	-27.1%	-30.0%	-25.8%	20.8%	16.6%	25.7%
2003年 1月末	-27.9%	-31.4%	-26.2%	23.7%	18.9%	30.4%
2003年 2月末	-29.5%	-32.1%	-29.6%	34.1%	27.9%	45.3%
2003年 3月末	-31.9%	-33.1%	-33.4%	26.8%	18.4%	35.6%
2008年 6月末	-22.9%	-24.6%	-23.4%	?	?	?
2008年 9月末	-31.3%	-27.8%	-35.9%	?	?	?
2008年 10月末	-50.1%	-45.6%	-55.4%	?	?	?
2008年 11月末	-51.0%	-47.0%	-56.8%	?	?	?

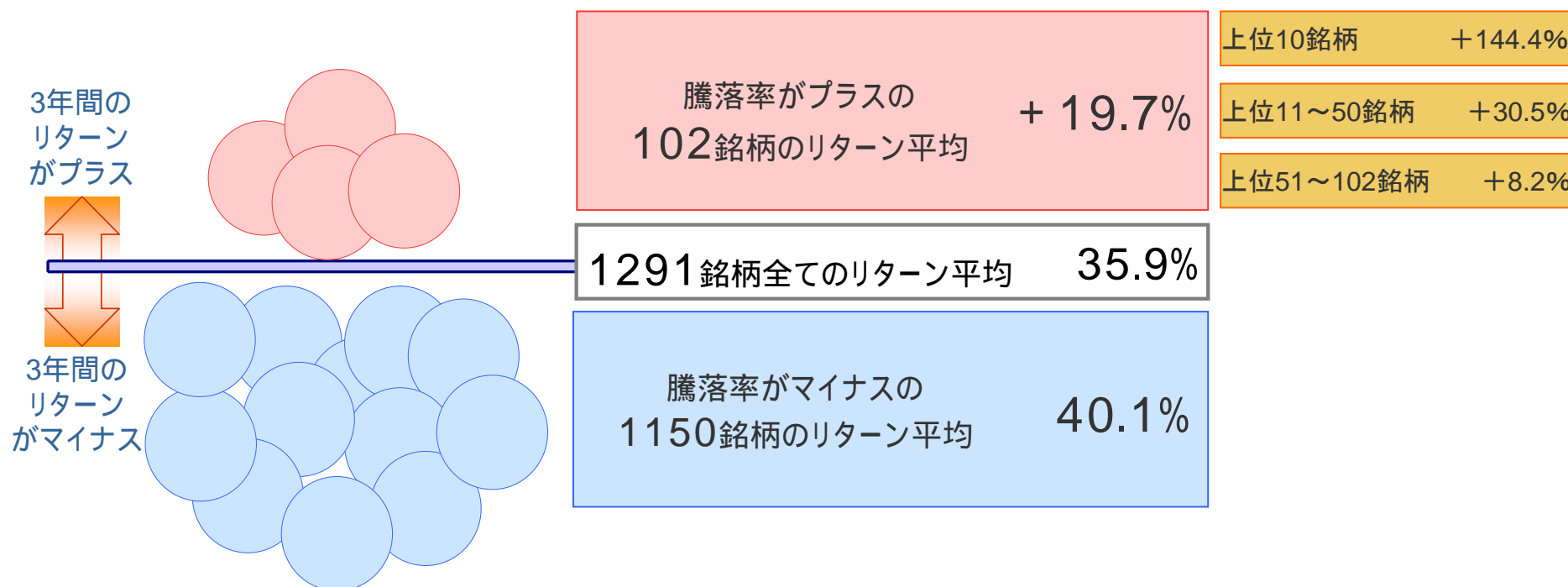
注: MSCI HPおよびRimesよりフィデリティ投信作成 期間: 1969年12月末~2008年11月末  
 世界株、米国株、欧州株は各々MSCIワールド、米国、欧州インデックス(グロス) 円ベース  
 表の見方: 例えば、年月が1974年9月末の場合、過去1年間の下落率の期間は1973年9月末~1974年9月末、その後1年間の上昇率の期間は1974年9月末~1975年9月末となります。

# 調整局面で広がりつつある投資機会 (3)

フィデリティ投信株式会社

 調整局面を含む変動の激しい相場でも投資機会があります。銘柄を見極めるチカラが重要です。

⇒ MSCIワールド指数構成銘柄の過去3年間の騰落率 (円ベース)



注: Rimesよりフィデリティ投信作成 期間: 2005年11月末~2008年11月末  
MSCIワールド指数の2008年11月末の構成銘柄で、かつ2005年11月末に構成銘柄であった銘柄が対象。



## ファンドのポイント

フィデリティ投信株式会社

- ☑ グローバルに有望と判断される企業で、株価が割安と考えられる銘柄を選別します。
- ☑ 世界企業の95%をカバーする\*フィデリティの幅広い調査体制で徹底的に調査します。
- ☑ 先進国から新興国まで、国や業種にとらわれず、割安な投資機会を積極的に追求します。

グローバルに割安な企業に投資できる機会が拡大しています。  
この投資機会をとらえることを目指します。

\* 世界の上場企業(時価総額ベース)

※上記は主な投資対象ファンドである、フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)の特色です。

## Point1 世界割安有望株とは？

# 市場に織り込まれていない投資機会をグローバルに追求

フィデリティ投信株式会社

## フィデリティが考える投資機会

様々な変化を勝ち残れる企業で、株価が投資価値を下回っている銘柄  
すなわち、**割安で有望な銘柄**を選ぶことを目指します。

- ☑ グローバル化などの市場の変化を勝ち残れる**有望企業**
- ☑ 特定の商品や産業をとりまく環境の変化を勝ち残れる**有望企業**
- ☑ 競争状況など経営環境の変化を勝ち残れる**有望企業**

で、**割安な**（株価に投資価値が反映されていない）銘柄を選別

## Point1 世界割安有望株とは？

# かつての成熟企業がグローバル化で有望企業へ

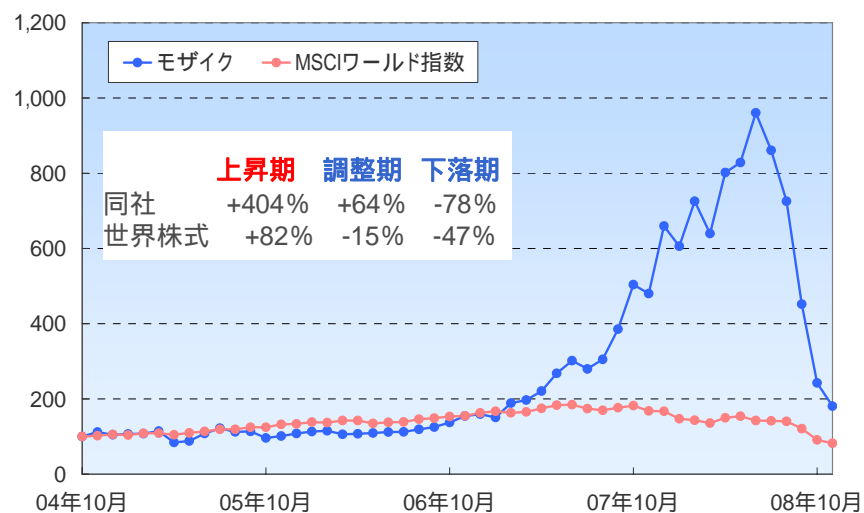


フィデリティ投信株式会社

### ☑ モザイク (米国 農薬・肥料)

- 農業は成長性の低い**成熟産業**と思われ、同社株価は**割安**に放置
- しかし、中国など新興国の所得増加や西欧化で、**農作物需要は予想以上に拡大**すると判断
- **農作物の増産で恩恵を受ける**農薬・肥料の世界最大手の同社に注目
- トウモロコシや小麦など農作物価格は長期的上昇局面へ

⇒ モザイクの株価とMSCIワールド指数の推移(上場来)



- 上昇期 2004年10月末～2007年10月末  
長期上昇相場
- 調整期 2007年10月末～2008年5月末  
サブプライムローン問題による  
下落局面
- 下落期 2008年5月末～2008年11月末  
金融危機以降の急落局面

出所 Bloomberg 期間 2004年10月末～2008年11月末 2004年10月末を100として指数化 円ベース

## Point1 世界割安有望株とは？

# グローバルに成長する商品で有望企業へ

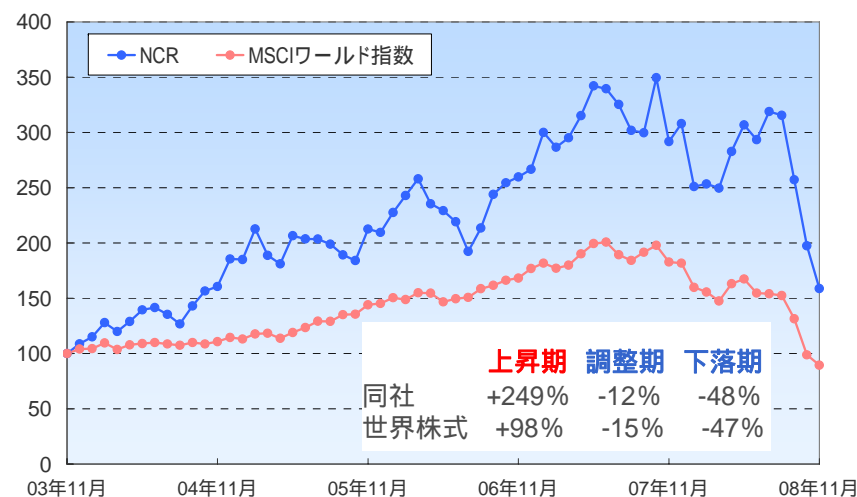


フィデリティ投信株式会社

### ☑ NCR (米国 電子機器)

- 自動販売機など成長性の低い**成熟した製品を持つ同社株は割安**に放置
- しかし、人件費削減など効率性向上や販売管理のニーズの高まりで電子機器のセルフ化が注目される
- セルフ搭乗手続き、セルフ・レジ会計、セルフ健康チェックなど**世界的に消費者向けサービスのセルフ化が進む**ことから、世界最大級のセルフ電子機器メーカーとして恩恵が大きいと判断
- 電子機器の新規需要が伸びる新興国へ展開できる安定した財務力も評価される

⇒ NCRの株価とMSCIワールド指数の推移(過去5年)



**上昇期** 2003年11月末～2007年10月末  
長期上昇相場

**調整期** 2007年10月末～2008年5月末  
サブプライムローン問題による  
下落局面

**下落期** 2008年5月末～2008年11月末  
金融危機以降の急落局面

出所 Bloomberg 期間 2003年11月末～2008年11月末 2003年11月末を100として指数化 円ベース

## Point 1 世界割安有望株とは？

# 環境変化を乗り越える競争力・経営力で有望企業へ

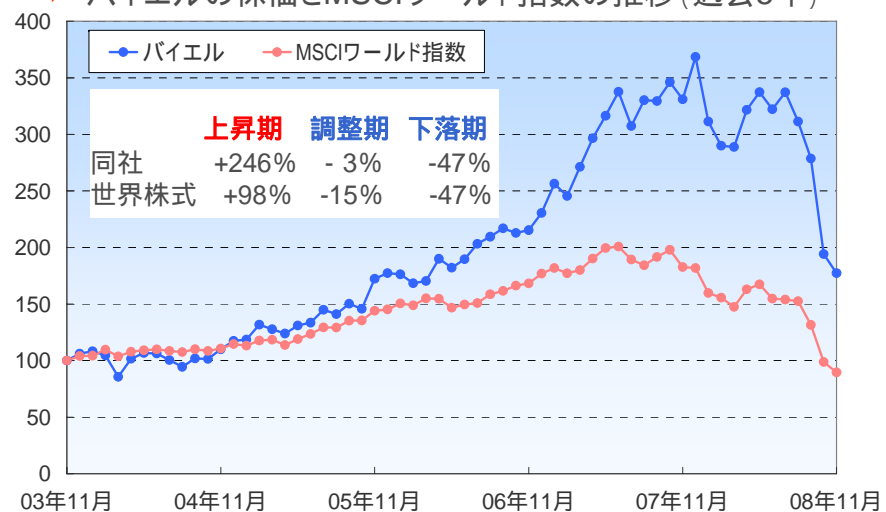


フィデリティ投信株式会社

## ☑ バイエル (ドイツ 薬品)

- 米国の薬価引き下げトレンドから、米国を主戦場とする**薬品企業の成長性は鈍化、株価も割安**に放置
- しかし、経営陣は経営資源を効率的に投下して、豊富で高品位な新薬開発パイプラインを築き、また有力な薬品会社(シェーリング社)を買収、リストラを断行するなど着実に手を打つ
- シェーリング社買収の成否など経営陣の戦略への評価が分かれるなか、**徹底調査で、着実に成長し、優良成長企業として評価を高めると判断**

⇒ バイエルの株価とMSCIワールド指数の推移(過去5年)



**上昇期** 2003年11月～2007年10月  
 長期上昇相場  
**調整期** 2007年10月～2008年5月  
 サブプライムローン問題による  
 下落局面  
**下落期** 2008年5月～2008年11月  
 金融危機以降の急落局面

出所 Bloomberg 期間 2003年11月末～2008年11月末 2003年11月末を100として指数化 円ベース

Point 2 有望株を選別する徹底した調査

【過去の投資例】 買収された割安有望企業

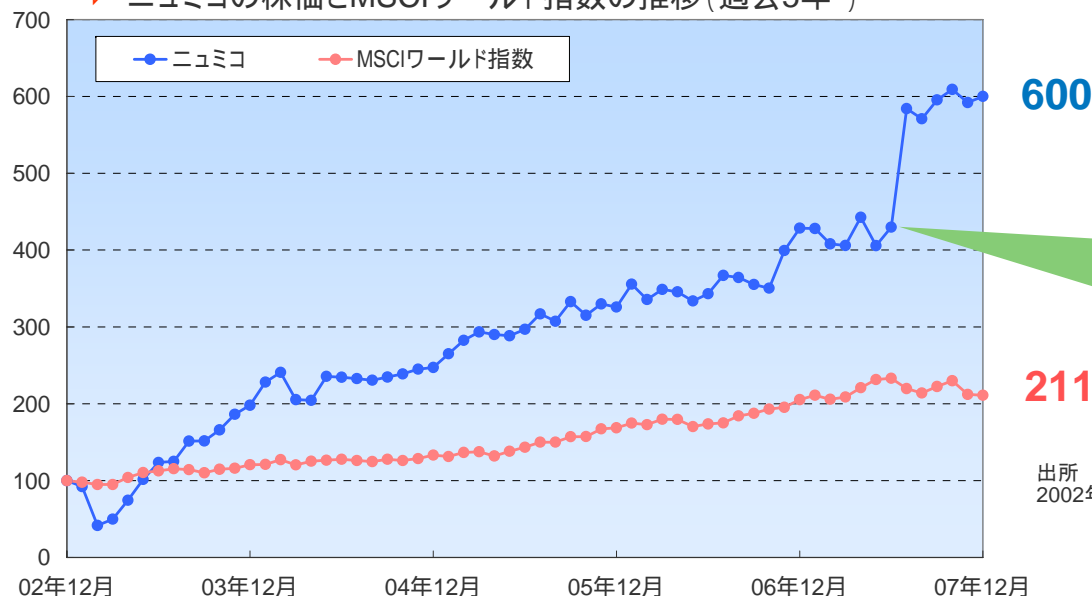


フィデリティ投信株式会社

 ニュミコ (オランダ ベビーフード・栄養食品)

- ☑ 2004年初旬 フィデリティは、旧東欧圏、中国、中東・アフリカ などでの情報収集から **世界的な低所得地域のグローバル経済への組み込み** **所得の増加と生活の西欧化** という変化に注目
- ☑ 40億の人口を擁する東欧・ロシア、中東・アフリカなど新興国の個人所得増加で、母乳からベビーフードへの転換が進み、世界需要は急拡大
- ☑ ベビーフードは成熟商品から急成長商品に変化、最大手の同社は2007年12月にダノン(仏)に買収され、上場廃止に

⇒ ニュミコの株価とMSCIワールド指数の推移(過去5年\*)



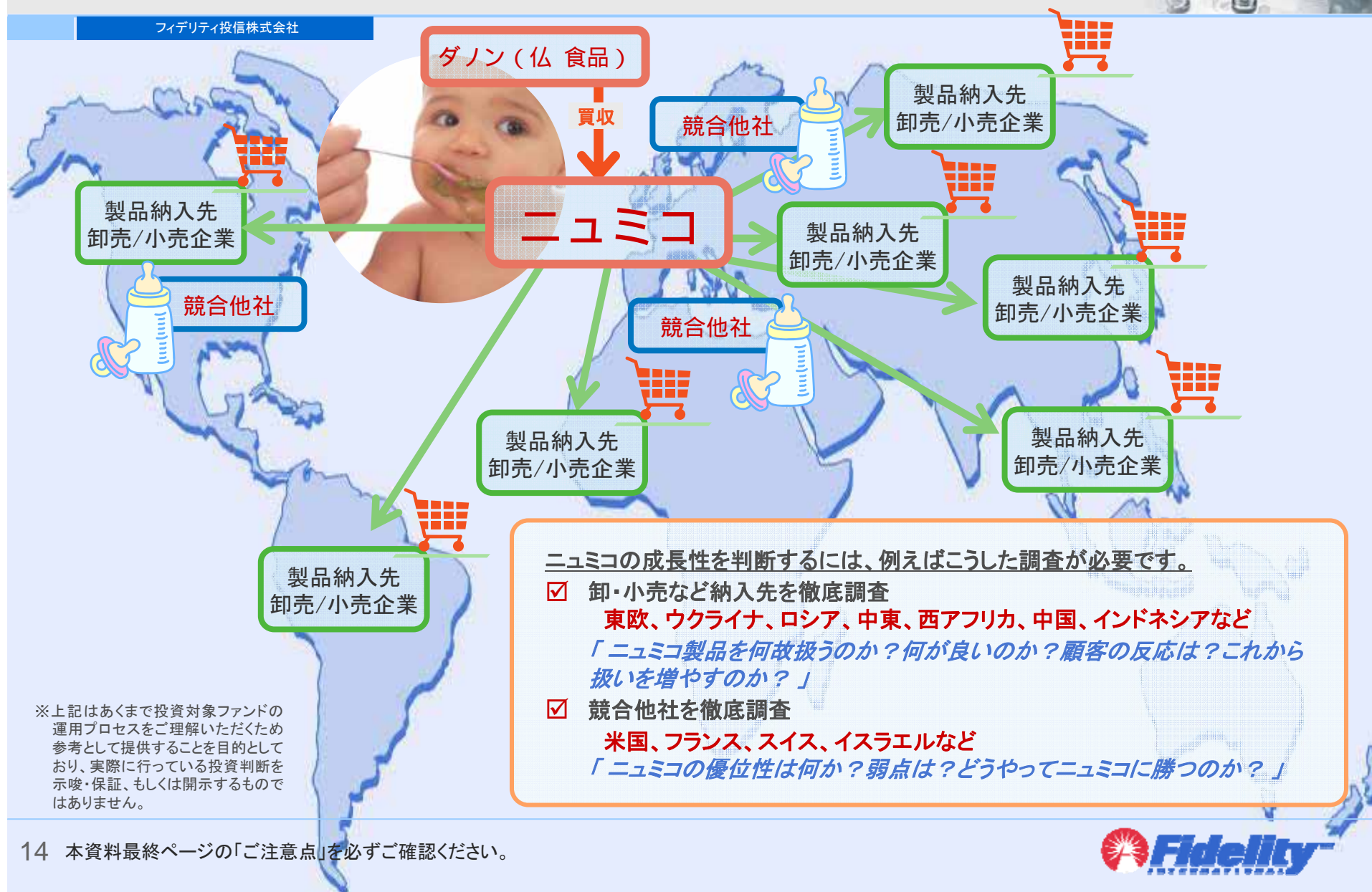
株価は割安と判断した  
ダノンが買収を発表

出所 Bloomberg \*期間 2002年12月末~2007年12月末  
2002年12月末を100として指数化 円ベース

Point 2 有望株を選別する徹底した調査

企業調査例： ニュミコ（オランダ ベビーフード・栄養食品）

フィデリティ投信株式会社



ダノン(仏 食品)

買収

ニュミコ

競合他社

製品納入先  
卸売/小売企業

製品納入先  
卸売/小売企業

競合他社

製品納入先  
卸売/小売企業

競合他社

製品納入先  
卸売/小売企業

製品納入先  
卸売/小売企業

製品納入先  
卸売/小売企業

製品納入先  
卸売/小売企業

ニュミコの成長性を判断するには、例えばこうした調査が必要です。

- ☑ 卸・小売など納入先を徹底調査  
東欧、ウクライナ、ロシア、中東、西アフリカ、中国、インドネシアなど  
「ニュミコ製品を何故扱うのか？何が良いのか？顧客の反応は？これから扱いを増やすのか？」
- ☑ 競合他社を徹底調査  
米国、フランス、スイス、イスラエルなど  
「ニュミコの優位性は何か？弱点は？どうやってニュミコに勝つのか？」

※上記はあくまで投資対象ファンドの運用プロセスをご理解いただくため参考として提供することを目的としており、実際に行っている投資判断を示唆・保証、もしくは開示するものではありません。



## Point 2 有望株を選別する徹底した調査 グローバルに広がるフィデリティの調査体制



フィデリティ投信株式会社

### なぜフィデリティか？

1つの企業が「世界で勝ち残れる有望企業なのか？」を知るには  
世界中の**100**社を調査する必要がある

- ☑ グローバル戦略の巧拙を判断できる
- ☑ セクターや国・地域を越えたビジネスのつながりを理解できる
- ☑ ローカルなビジネスへの深い理解がある
- ☑ 世界的な視野で割安感を判断できる



## Point 2 有望株を選別する徹底した調査 グローバルに広がるフィデリティの株式調査体制

フィデリティ投信株式会社



### ◆欧州

59名 ポートフォリオ・マネージャー  
82名 アナリスト

英国  
ドイツ  
フランス  
イタリア

### ◆アジア(除く日本)

24名 ポートフォリオ・マネージャー  
41名 アナリスト

韓国 日本  
香港  
インド  
シンガポール

### ◆日本

19名 ポートフォリオ・マネージャー  
29名 アナリスト

オーストラリア

### ◆北米/南米

102名 ポートフォリオ・マネージャー  
241名 アナリスト

カナダ  
米国

### ◆グローバル

204名 ポートフォリオ・マネージャー  
393名 アナリスト

はフィデリティの調査・運用拠点

FMR LLC およびFIL Limitedとその関連会社を含みます。

FMR LLCは、フィデリティの北米地域における事業を統括する持株会社、FIL Limitedは、フィデリティの北米地域外における事業を統括する持株会社です。

アナリストには、リサーチ・アナリストとリサーチ・アソシエイトを含みます。管理職等は除きます。

上表中の数値は、将来変更となることがあります。

2008年6月末現在

### Point 3 投資機会を追求する運用体制

## 国や業種を越えて投資機会をグローバルに追求



フィデリティ投信株式会社



ポートフォリオ・マネージャー  
ヨルマ・コルホーネン

私はグローバルに年間700回の企業訪問を行います。まさに飛行機に寝泊りする男です。

(ファンドの組入銘柄数 約50~150銘柄\*1)

消費



金融



資本財



# セクターを越えて

### グローバルセクターファンドの 運用担当者(6名\*2)

(セクターファンドの組入銘柄数 約350~550銘柄)

ヘルスケア



通信



テクノロジー



# 国を越えて

※フィデリティはグローバル株式を6つのセクターに分け、6つのグローバルセクターファンドを運用しています。

※上記は主な投資対象ファンドの運用プロセスをイメージ化したものです。

## グローバル株式 運用・調査担当者 **597**名\*2

(カバーする銘柄数 約8,000~12,000銘柄)

\*1 派生商品による保有分を除く

\*2 2008年6月末現在

## Point 3 投資機会を追求する運用体制 選抜された経験豊かな運用担当者

フィデリティ投信株式会社



ヨルマ・コルホーネン

### ポートフォリオ・マネージャー ヨルマ・コルホーネン\*について

- ☑ グローバル運用の実績を評価され、本ファンドの運用担当者に昇格
- ☑ これまでの運用手法に加えて、更にグローバルな独自の視点を加えて運用

\*フィデリティ世界割安有望株ファンドの主な投資対象ファンドである、フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)のポートフォリオ・マネージャー

- 1966年 フィンランド生まれ
- シラー国際大学 MBA
- 第一勲業銀行ルクセンブルグで4年間勤務
- 1996年にアナリストとしてフィデリティに入社 ロンドンおよびボストン勤務
- ボストンでは海外株式の運用チームに所属
- 2002年からフィデリティ・イベリア・ファンド、フィデリティ・イタリア・ファンド、フィデリティ・スイス・ファンドのポートフォリオ・マネージャーを歴任
- 2004年9月にフィデリティ・グローバル・ファンドのポートフォリオ・マネージャーに任命される
- 2007年1月1日よりフィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)の専任ポートフォリオ・マネージャー

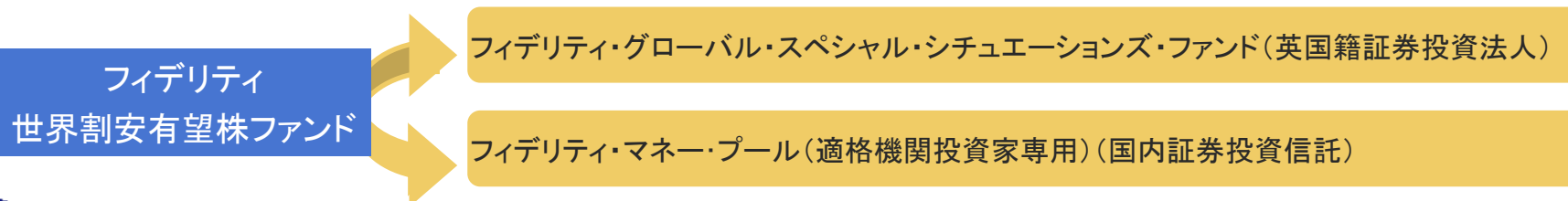
※2008年11月時点

# ファンドの概要

フィデリティ投信株式会社

## ファンドのしくみ

投資信託証券への投資を通じて、主として世界(日本を含みます。)の株式へ投資を行ないます。  
主としてフィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)およびフィデリティ・マネー・プール(適格機関投資家専用)(国内証券投資信託)に投資を行います。



## ベンチマーク

ファンドにはベンチマークを設けません。

## 決算日

毎年6月26日および12月26日(ただし、休業日の場合は翌日以降の最初の営業日)

## ファンドの特色

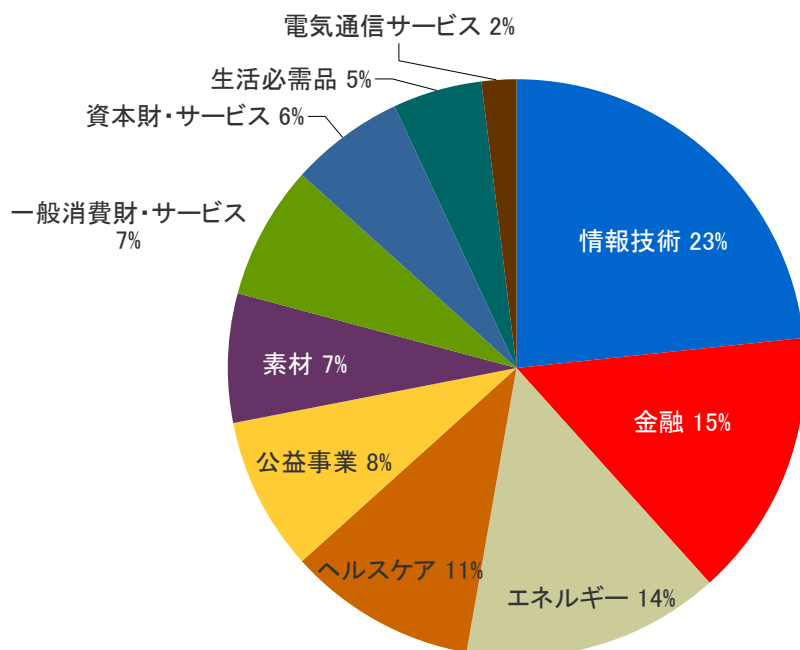
- 投資信託証券への投資を通じて、主として世界(日本を含みます。)の株式へ投資を行ない、投資信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ないます。
- 組入れを行なう投資信託証券における株式の運用では、個別企業分析により、主に成長が期待できる企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。
- 組入れを行なう投資信託証券における株式の運用では、様々な変化を勝ち残れると期待される企業で、株価が投資価値を下回っている(有望で割安な)企業を選択することを目指します。
- 組入れを行なう投資信託証券において、個別有価証券ないし特定の市場指数を売建てする取引を行なう場合があります。
- 組入れを行なう投資信託証券において、個別有価証券ないし特定の市場指数を買建てることがあり、また個別有価証券ないし特定の市場指数の売建てと買建ての実質的な合計額が、当該投資対象ファンドの純資産総額を超える場合があります。
- 組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。
- 資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

# 主な投資対象ファンドの運用状況(業種・地域・国別配分)

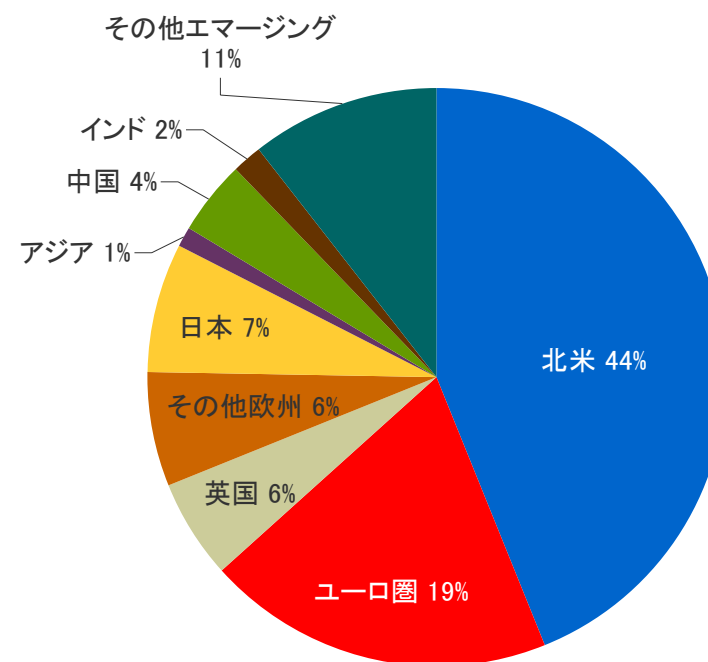
フィデリティ投信株式会社

 フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)

業種配分



地域・国別配分



出所 FIL Limited 時点 2008年9月末 派生商品による保有分を除く

※ フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービスズ・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人です。参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っておりません。

※ 上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

# 主な投資対象ファンドの運用状況(保有上位10銘柄)



フィデリティ投信株式会社

## フィデリティ・グローバル・スペシャルシチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)

銘柄名	国	業種	2008年9月
ジュニパー・ネットワークス	米国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	3.9%
ハリス	米国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	3.2%
イーオン	ドイツ	公益事業	2.9%
バイエル	ドイツ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.7%
トルコハルク銀行	トルコ	銀行	2.7%
ロッシュ・ホールディングス	スイス	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.5%
NCR	米国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.3%
フレゼニウス	ドイツ	ヘルスケア機器・サービス	2.3%
ナイコ・リソーシス	カナダ	エネルギー	2.0%
テレフォニカ	スペイン	電気通信サービス	2.0%
保有上位TOP10 合計			26.5%

(組入銘柄数 103\*銘柄)

### 銘柄例でご紹介した銘柄

出所 FIL Limited 時点 2008年9月末 \*派生商品による保有分を除く

※ フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービス・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人です。参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っておりません。

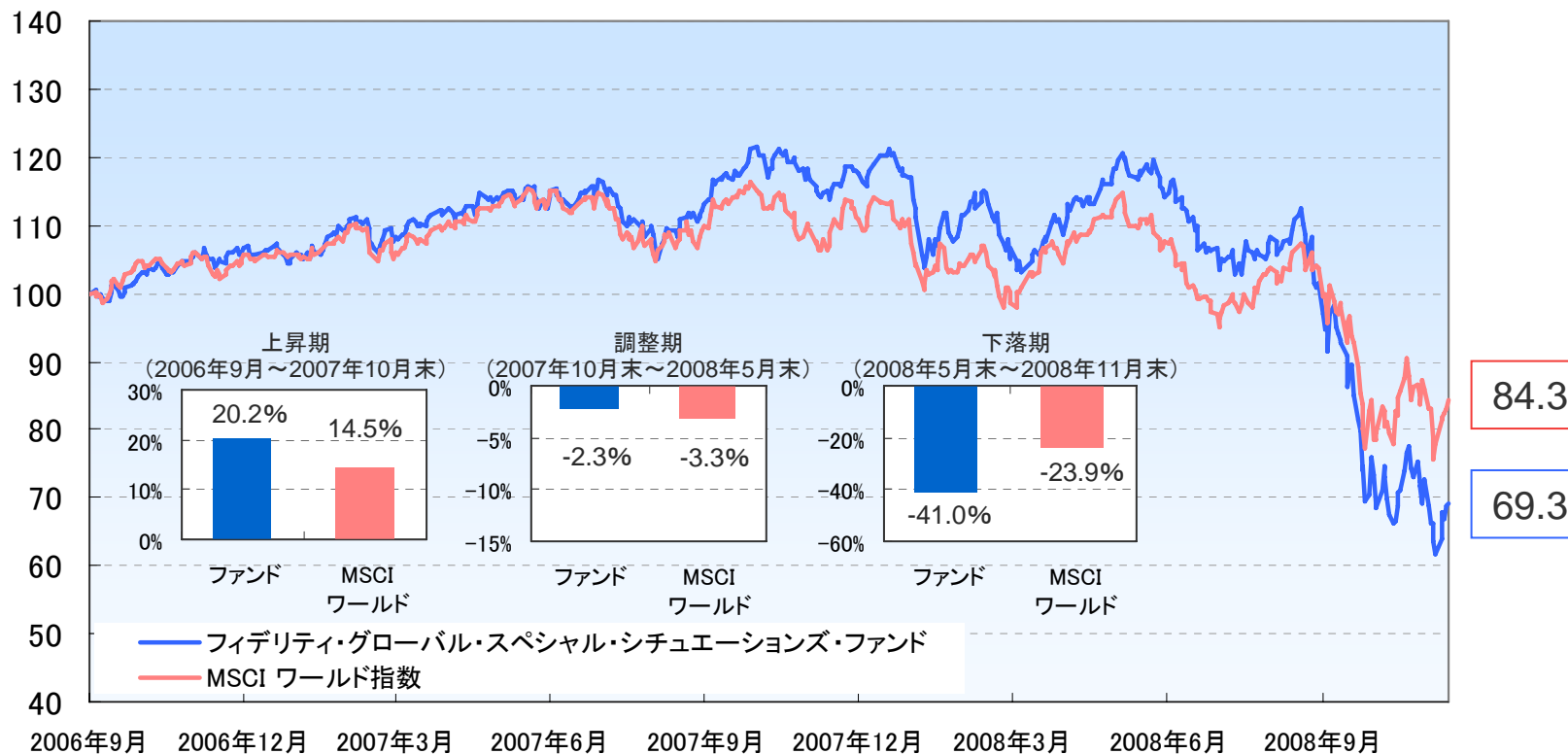
※ 上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

# 主な投資対象ファンドの運用状況(基準価額の推移)



フィデリティ投信株式会社

## フィデリティ・グローバル・スペシャルシチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)



出所 FIL Limited 期間 2006年9月15日(設定来)～2008年11月末 ファンド、指数ともにポンドベース 2006年9月15日を100として指数化  
 グラフ中の上昇期は長期上昇相場、調整期はサブプライムローン問題による下落局面、下落期は金融危機以降の急落局面

※ フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービス・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人です。参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っておりません。

※ 上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

## ご参考資料

以下は、フィデリティ世界割安有望株ファンドが主に投資する**フィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)**のご説明ではなく、その前身である英国株中心に投資する**フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)**のご説明です。  
あくまでフィデリティのスペシャル・シチュエーションズ運用をご理解いただくための参考として掲載しています。


※ フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)およびフィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービス・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人です。参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っておりません。



## ご参考

## フィデリティのスペシャル・シチュエーションズ運用(1)

フィデリティ投信株式会社

-  グローバル化の進展で英国株からグローバル株へ投資対象を拡大  
2006年9月15日にフィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)は  
クローズされ、既存受益者に2ファンドが付与されました

英国株中心

## フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド (英国籍証券投資法人)

グローバル株中心

フィデリティ・グローバル・  
スペシャル・シチュエーションズ・  
ファンド(英国籍証券投資法人)

フィデリティ世界割安有望株ファンド  
の主な投資対象

英国株中心


フィデリティ・スペシャル・  
シチュエーションズ・ファンド  
(英国籍証券投資法人)

※ フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)およびフィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービス・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人です。参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っておりません。

## ご参考

## フィデリティのスペシャル・シチュエーションズ運用(2)

フィデリティ投信株式会社

 フィデリティ世界割安有望株ファンドは、様々な変化を勝ち抜ける企業で、投資価値を下回って評価されている銘柄(スペシャル・シチュエーションにある銘柄)を実質的に組み入れます。そこで長い実績のあるフィデリティのスペシャル・シチュエーション運用についてご紹介いたします。

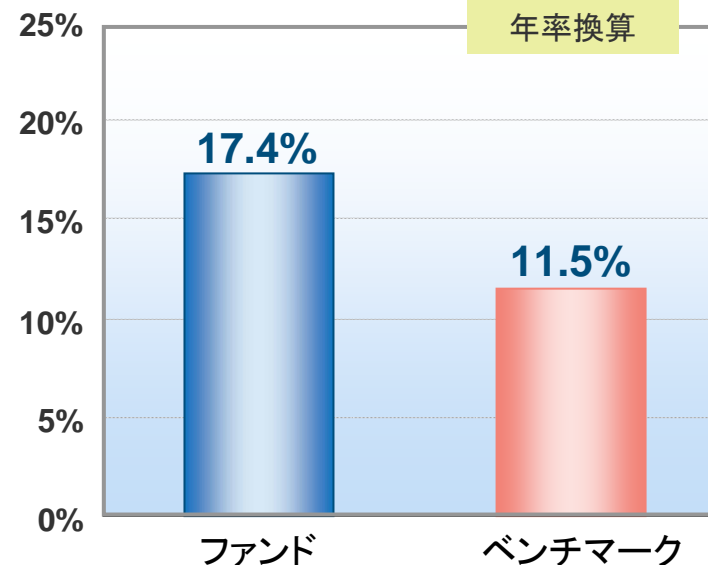
☑ フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)を1979年12月に設定。

☑ 2006年8月末\*1時点で運用残高は1兆円を超え、フィデリティ(ロンドン)で運用する**最大級**のファンドに成長  
\*1 2006年8月末はファンドクローズ前の最終月末

☑ フィデリティならではの徹底した企業分析で構造変化を捉え、長期の卓越した運用実績を達成(右図参照)  
設定来約29年間の累積投資額は、ベンチマーク(FTSEオールシェア(英国)指数)の**約20倍**\*2に対し、ファンドは**約100倍**\*2に

\*2 2008年11月末時点

(英国籍証券投資法人)  
フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド  
とベンチマークの設定来の年率パフォーマンス  
(2008年11月末時点)



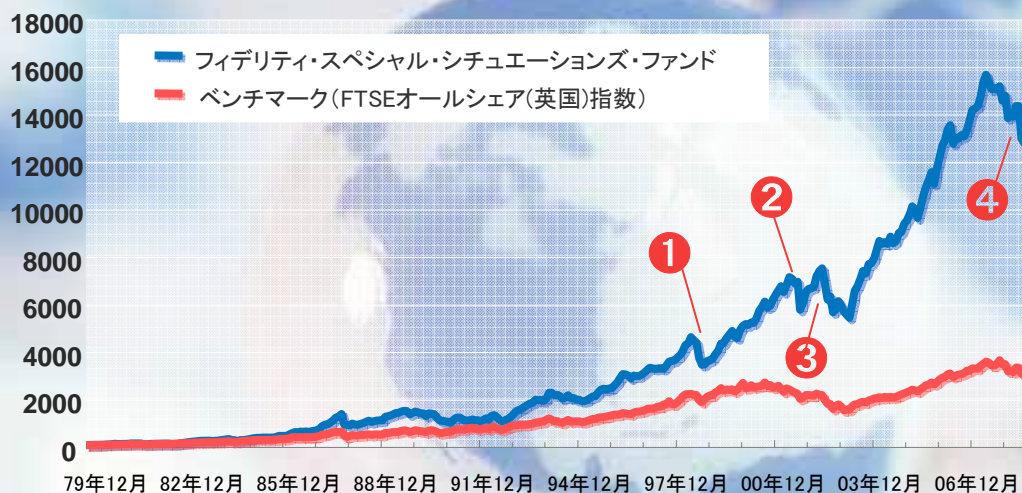
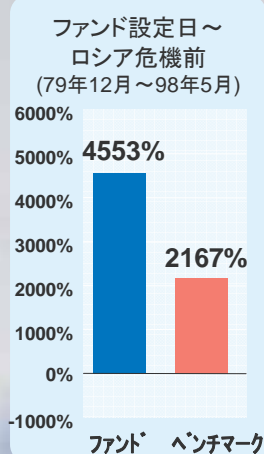
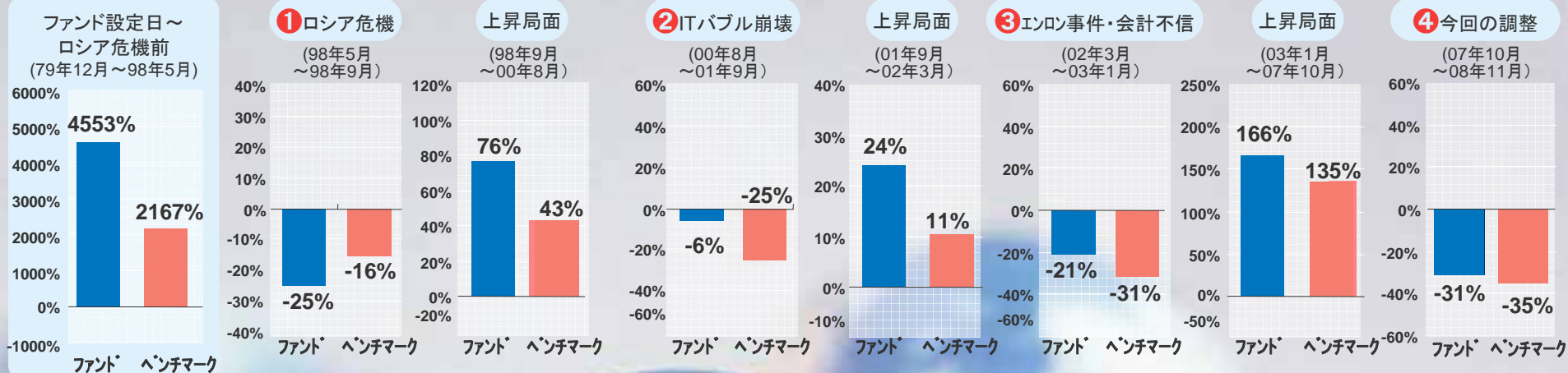
※フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービス・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人です。  
参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っていません。  
※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

# ご参考

## フィデリティのスペシャル・シチュエーションズ運用(3)

フィデリティ投信株式会社

### 過去10年間の下落局面でのフィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンドとベンチマークの動き



※過去の運用実績は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。  
 ※フィデリティ・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)はフィデリティ・インベストメント・サービス・リミテッド(英国)が運用する英国籍証券投資法人で、フィデリティ世界割安有望株ファンドの主な投資対象であるフィデリティ・グローバル・スペシャル・シチュエーションズ・ファンド(英国籍証券投資法人)とは異なるファンドです。参考資料として提供することのみを目的として記載しています。当ファンドは日本での販売は行っておりません。

FILよりフィデリティ投信作成  
 期間: 1979年12月～2008年11月末  
 (設定日および各月末値)  
 1979年12月17日を100として指数化

## ご注意点

フィデリティ投信株式会社

- 当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入れを示唆するものではありません。
- FIL Limited およびFMR LLCとそれらの関連会社のネットワークを総称して「フィデリティ」ということがあります。FIL Limitedは、フィデリティの北米地域外における事業を統括する持株会社、FMR LLCは、フィデリティの北米地域における事業を統括する持株会社です。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。
- 投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
- 販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入していません。
- 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- 投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
- 投資信託説明書(目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、販売会社につきましては以下のホームページ(<http://www.fidelity.co.jp/fij/fund/japan.html>)をご参照ください。

KI 081121-4 IEBD0812-023

# リセッション局面の米国株式市場について

**大和証券**

Daiwa Securities

<販売会社>

商号等 大和証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号  
加入協会 日本証券業協会  
社団法人 日本証券投資顧問業協会  
社団法人 金融先物取引行協会

**フィデリティ投信株式会社**

<委託会社>

商号等 フィデリティ投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第388号  
加入協会 社団法人 投資信託協会  
社団法人 日本証券投資顧問業協会

## 当資料のお取扱いにおけるご注意

当資料は、フィデリティ投信株式会社によって作成されたもので、投資判断の参考となる情報提供を目的としており勧誘を目的としたものではありません。特定ファンドの取得をご希望の場合には当該ファンドの「投資信託説明書(交付目論見書)」をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので必ずご確認いただき、投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。最終ページのご注意点も合わせてご覧ください。

# 景気後退局面中に底を打つ米国株

フィデリティ投信株式会社

## 1920年以降の米国景気後退(リセッション)局面の株価の動き

リセッション期間	期間月数	期間騰落率	下落月数	底値からリセッション終了までの上昇率	リセッション期間中に強気相場は始まったのか?
20年 11月 ~ 21年 12月	14	-5.0%	23	20.4%	Yes
24年 3月 ~ 24年 11月	9	13.7%	5	23.2%	Yes
27年 8月 ~ 28年 5月	10	21.2%	1	21.0%	Yes
29年 12月 ~ 33年 3月	40	-76.8%	35	29.3%	Yes
37年 10月 ~ 38年 10月	13	-1.8%	14	53.3%	Yes
45年 1月 ~ 46年 8月	20	24.2%	0	23.1%	Yes
49年 1月 ~ 50年 1月	13	13.8%	14	20.5%	Yes
53年 11月 ~ 54年 11月	13	40.2%	13	37.7%	Yes
57年 10月 ~ 58年 10月	13	19.0%	18	24.7%	Yes
60年 12月 ~ 61年 5月	6	16.7%	7	13.1%	Yes
70年 1月 ~ 71年 4月	16	17.7%	20	37.8%	Yes
74年 9月 ~ 75年 11月	15	26.8%	22	41.6%	Yes
80年 3月 ~ 81年 4月	14	16.8%	8	27.0%	Yes
81年 11月 ~ 83年 4月	18	43.8%	17	51.6%	Yes
90年 12月 ~ 91年 10月	11	19.9%	6	16.5%	Yes
01年 2月 ~ 02年 5月	16	-8.8%	5	12.2%	Yes
08年 7月 ~ ?	?	?	?	?	?
平均	15.1	11.3%	13.0	28.3%	
平均(大恐慌除く)	13	17.2%	11.5	28.2%	

ダウ平均  
2008/7/31  
11,378ドル

過去16回、全てのリセッション期間で期間中に強気相場が始まっています。

うち12回で、期間騰落率はプラス(平均上昇率は+11.3%)です。

2008年11月時点で直近高値(2007年10月)からの下落月数は13ヶ月と、過去の下落月数の平均と並んでいます。

リセッション期間中の底値からリセッション終了まで、米国株式は平均で+28.3%上昇しています。

Bloombergよりフィデリティ投信作成 期間: 1920年11月 ~ 2008年11月(月次データ) 株価はNYダウ工業株30種(ドルベース)を使用  
リセッション期間とは、米鉱工業生産指数が6ヶ月連続で前年比マイナスとなった期間 底値はリセッション期間中の安値 下落月数は直近高値から底値まで

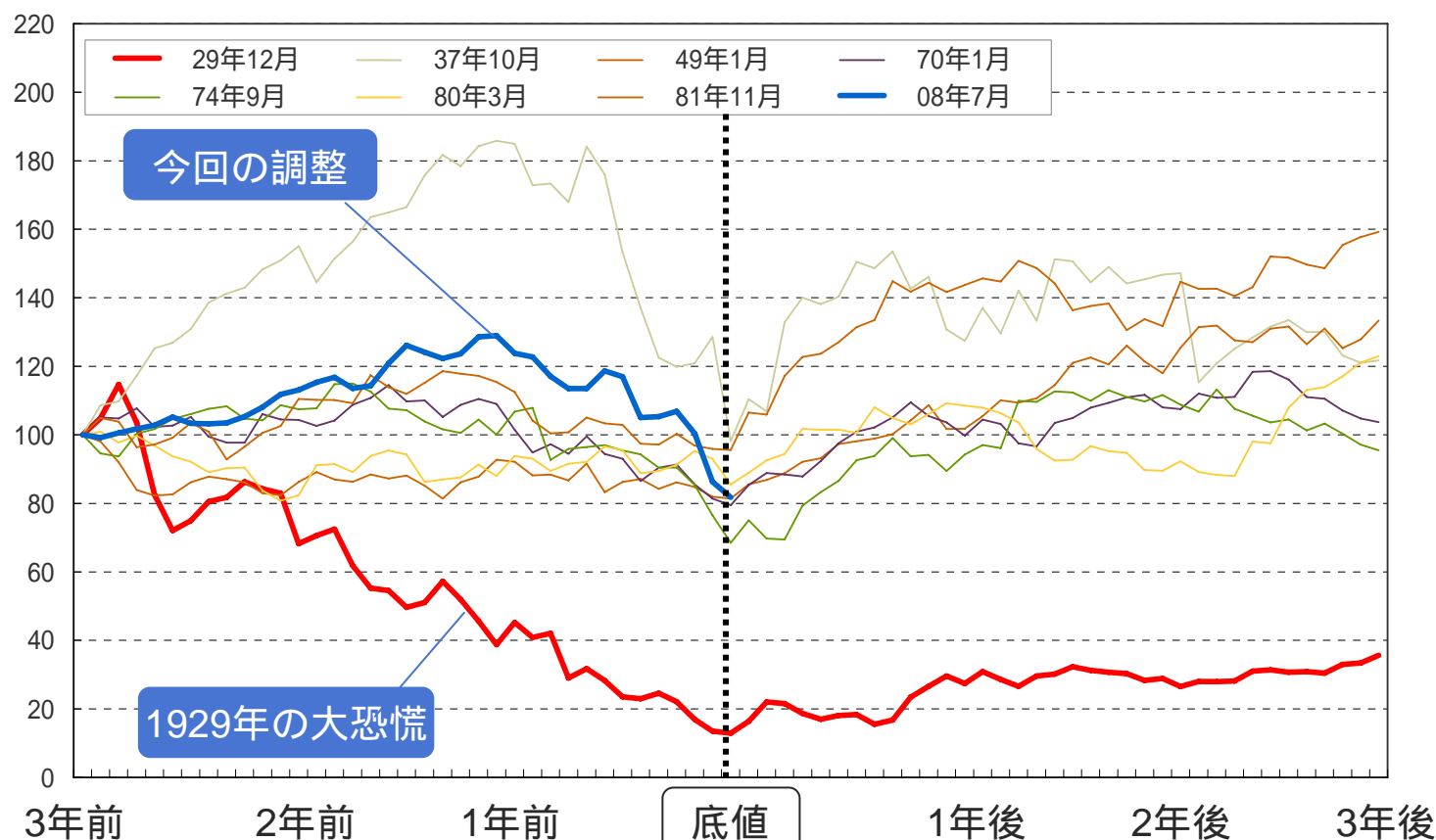
1 本資料最終ページの「ご注意点」を必ずご確認ください。



# 過去の反騰タイミングとの比較

フィデリティ投信株式会社

## 1920年以降の米国景気後退(リセセッション)局面の株価の動き (底値前後3年)




Bloombergよりフィデリティ投信作成 期間: 1920年11月～2008年11月(月次データ) 底値はリセセッション期間中の安値 底値の3年前を100として指数化。  
 今回の調整以外は底値前後3年間を表示。底値が3年前株価を上回っている場合を除く。リセセッション期間とは、米鉱工業生産指数が6ヶ月連続で前年比マイナスとなった期間  
 株価はNYダウ工業株30種(ドルベース)を使用 グラフの凡例は、ページ1記載表の該当するリセセッションの番号およびリセセッション開始年月を表示

2 本資料最終ページの「ご注意点」を必ずご確認ください。



# 反騰局面で広がる銘柄格差 銘柄を見極めるチカラが重要

フィデリティ投信株式会社

 1980年以降の米国景気後退(リセッション)期間中の底値からリセッション終了までの個別銘柄の騰落率

	80年3月	81年11月	90年12月	2001年2月
底値をつけた年月～ リセッション終了年月	1980年3月～ 1981年4月	1982年7月～ 1983年4月	1990年12月～ 1991年10月	2001年9月～ 2002年5月
上位25%	71.5%	117.9%	77.0%	45.7%
平均	37.3%	61.4%	36.2%	3.8%
下位25%	3.2%	19.8%	2.8%	21.9%

Rimesよりフィデリティ投信作成 期間:1980年1月～2008年11月(月次データ) 底値はリセッション期間中の安値。リセッション期間とは、米鉱工業生産指数が6ヶ月連続で前年比マイナスとなった期間 各底値時とそのリセッション終了時ともにMSCI米国指数の構成銘柄で、騰落率がRimesで取得可能な銘柄が対象。ドルベースを使用。

3 本資料最終ページの「ご注意点」を必ずご確認ください。





# ご注意点

フィデリティ投信株式会社

当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。

当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。

当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

FIL LimitedおよびFMR LLC とそれらの関連会社のネットワークを総称して「フィデリティ」ということがあります。FIL Limitedは、フィデリティの北米地域外における事業を統括する持株会社、FMR LLCは、フィデリティの北米地域における事業を統括する持株会社です。

当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。

投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。

販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。

投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。

投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。

ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。

- ・申込時に直接ご負担いただく費用・・・申込手数料 上限 3.675%(消費税等相当額抜き3.5%)
- ・換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保金 上限 1%
- ・投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限 年率2.0265%(消費税等相当額抜き1.93%)
- ・その他費用・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。

ご注意) 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

KI 081205-8

## お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

### 手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.20750%（但し、最低 2,625 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 非上場債券（国債、地方債、政府保証債、社債）を当社が相手方となりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。こうした銘柄については、外国証券内容説明書をご覧ください。

商号等：大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会：日本証券業協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会、社団法人 金融先物取引業協会